

平成26年度第2回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：平成27年2月23日（月） 15時～17時

場所：教育委員会室

議事 平成27年度教育委員会当初予算（案）等の概要について

- 資料1、2-1、2-2に基づき事務局より説明

議事 山口県教育振興基本計画の改定について

- 資料3に基づき事務局より説明

■主な意見

- いじめの有無や解消の状況については、いじめられている本人の状況を最優先して判断することが必要。
- 不登校の状況など、目標としている指標の状況をしっかり把握しておくことが重要。
- いじめなどに打ち勝てるような自分の強さを持たせる教育も重要。
- 読書活動の推進や体力の向上は、幼児期における実態把握や取組が重要。
- 幼児期の子どもは、体育指導等で決められたことをするより、外で自由に遊ばせる方が体力が伸びる場合もある。
- 小学校6年から中学校にかけての子どもが、誰にも相談できずにつまずいている事例が多いため、この解消に向けた取組が必要。
- やまぐち教育応援団登録企業の活用を一層進めることが必要。
- コミュニティ・スクールを核とした取組により、人が豊かになって、地域教育力日本一となることを確信している。今後は、単に設置率が100%になるのみでなく、うまく機能するようにしていかなければならない。
- コミュニティ・スクールは地域ごとに取組の差があるため、さらなる充実に向けて、以下のような取組を行うことが重要。
 - ・社会教育主事や公民館主事と連携して、学校と地域をうまく融合させていく。
 - ・具体的な運営手法の他、社会ニーズを踏まえた学校づくりなど大きなベクトルでの教員研修を行う。
 - ・市町の社会教育等の担当部署と連携し、地域全体で取り組む雰囲気づくりを行う。
- 地域住民との交流等により、生徒のコミュニケーション能力を伸ばせば、社会に出て企業の戦力となる人材にもなりうる。
- 障害のある方への対応なども学校や病院だけでは困難なことが多く、地域の多くの人に関わって対応することが重要。
- 地域の歴史や伝統を子どもたちに伝えていくことが重要。
- チャレンジプランから基本計画の各プロジェクトまで、よく配慮された整合性のあるものが策定されている。今後は、県がしっかり進行管理して推進していくことが必要。